

執筆者一覧および活動報告(2001. 11～2003. 2)

・橋本紀子(女子栄養大学教授)

[著書・論文]

- ・『仕事と家族と幸福感』(共訳) 大月書店, 2001年, 訳原題 “WORK, FAMILY AND WELL-BEING” Elina Haavio-Mannila
- ・「オーストラリアレポート・性をめぐる文化と環境のちがい」“人間と性” 教育研究協議会編『季刊セクシュアリティ』No. 5(エイデル研究所), 2002年1月, pp. 154-156.
- ・「オーストラリアレポート・多様な人間存在の承認」“人間と性” 教育研究協議会編『季刊セクシュアリティ』No. 6(エイデル研究所), 2002年4月, pp. 158-160.
- ・「思春期の子どもたちにジェンダー・フリーの教育を！」日本思春期学会『思春期学』Vol. 20 No. 2, pp. 227-234.
- ・「オーストラリアレポート・実践的スキルを取り入れた予防教育」“人間と性” 教育研究協議会編『季刊セクシュアリティ』No. 7(エイデル研究所), 2002年7月, pp. 156-158.
- ・「オーストラリアレポート・オーストラリアの性産業」“人間と性” 教育研究協議会編『季刊セクシュアリティ』No. 8(エイデル研究所) 2002年10月, pp. 164-167.

[学会発表]

- ・日本教育学会第61回大会「マーガレット・サンガー主幹 “BIRTH CONTROL REVIEW” にみられる日本の産児調節運動」2002年8月, 於: 福岡教育大学.

・田代美江子(女子栄養大学助手)

[著書・論文]

- ・「性差と教育－近代日本の性教育論に見られる男女の関係性－」, 『歴史学研究』No. 765, 2001年8月, pp. 15-62.
- ・「日本の性教育の歩み⑤ 近代日本の社会運動と性教育－産児調節運動と性教育(その一)」“人間と性” 教育研究協議会編『季刊セクシュアリティ』No. 5(エイデル研究所) 2002年1月, pp. 118-121.
- ・「日本の性教育の歩み⑥ 近代日本の社会運動と性教育－産児調節運動と性教育(その二)」“人間と性” 教育研究協議会編『季刊セクシュアリティ』No. 6(エイデル研究所), 2002年4月, pp. 128-131.
- ・久保義三他編著『現代教育史事典』東京書籍, 2001年12月, 担当「性教育 総説」, pp. 262-265.
- ・「子どもの願いを読みとること－『ココロの絵本・第4巻「好きな人いる？」」をジェンダーの視点から読む－」日本作文の会編集・百合出版『作文と教育』No. 650, 2001年11月, pp. 24-27.

[学会発表]

- ・「日本における廃娼運動と教育－1905年以降の日本キリスト教婦人矯風会を中心－」(韓国「戦争と女性の人権センター」・日本「女性・戦争・人権」学会共同シンポジウム「日帝強占期初期の日韓女性の‘生’の変化」), 2003年11月, 於: ソウル

・藤野彰子(東京慈恵会医科大学医学部看護学科助教授、女子栄養大学大学院栄養学研究科保健学専攻博士後期課程2000年度修了)

・工藤洋子(女子栄養大学大学院栄養学研究科保健学専攻修士課程1年)

・柳井郁子(女子栄養大学非常勤講師、放送大学非常勤講師)